

緑の地球

GREEN EARTH

地球環境のための国境をこえた民衆の協力



今年は蔚県陽眷鎮でマツとアンズの植樹をおこなった。

Contents

- 第28回総会のご案内 P 2
- 蔚県陽眷鎮でマツとアンズを植樹しました P 3
- 大同緑化協力25年の軌跡 P 3
- GEN なんでも勉強会オンライン 参加者募集 ... P 4
- 森林についてともに学ぶ P 6



GEN 公式サイトリンク

2022.5

205

認定特定非営利活動法人 緑の地球ネットワーク



緑の地球ネットワーク 第28回総会のご案内

6月11日、緑の地球ネットワーク第28回総会をおこないます。会場とオンラインでの参加のほか、郵送とe-mailによる意思表示も可能です。会員のみなさんには、総会に提案する文書を近日中に発送しますので、お読みになったうえでご意見を同封の返信はがき、またはe-mailにてお寄せいただくようお願いいたします。

まん延防止等重点措置が適用された場合など、会場の使用が不可能となった場合はオンラインのみでの開催となります。

1992年にスタートしたGENの活動は今年で30年を迎えました。節目の年、総会に参加してGENのこれまでとこれからを一緒に考えませんか。コロナで中国を訪問できない状況が続きますが、今できることを精いっぱいやっていきますので、ぜひみなさまのご参加をお待ちしています。

【緑の地球ネットワーク第28回総会】

○日程：6月11日（土）13時30分～16時30分ごろ

○会場：大阪産業創造館5階研修室A・

B（大阪市中央区本町1-4-5 tel. 06-6264-9911 大阪メトロ中央線・堺筋線「堺筋本町」駅1番出口より徒歩5分）

○記念講演：13時30分～15時『地域の多様性から考えるSDGs・ポストSDGs時代の環境共生』

○総会：15時20分～16時30分

※総会終了後、同会場にて懇親会を予定しています（状況により、懇親会は中止となる場合があります）。

会員メーリングリストにご参加ください

GENの会員メーリングリスト登録がまだの方いらっしゃいますか？ご登録いただくと、会報に加えて多くの最新情報をお届けできます。また、送られてきたリンクをクリックするだけでスムーズにイベントの申込みやYouTubeのGENチャンネルの閲覧ができます。ぜひ会員であるメリットをご享受ください。登録は簡単です。ご希望の方は件名を「メーリングリスト参加希望」とし、GENまで（gen@gen-tree.org）メールをお送りいただくか、右下のQRコードの「Google Form」アンケートよりお申込みください。なお、登録するメールアドレスはiCloudメール以外のものでお願いいたします。



お申込みください。

①6月9日（木）までに件名を「総会記念講演参加希望」とし、本文にお名前を記入してGENまで（gen@gen-tree.org）メールをお送りください。

②6月9日（木）までにGENホームページの「参加する」ページ <https://gen-tree.org/participate/> よりお申込みください。

③6月10日（金）14時までにイベント管理サイト Peatix (<https://gensoukai2022.peatix.com/>) よりお申込みください。

蔚県陽眷鎮で マツとアングズを植樹しました

今年も中国へのツアー派遣がかなわず、植樹に参加することはできませんでしたが、4月、現地では無事に植樹を終えることができました。

今年度実施したのは張家口市蔚県陽眷鎮です。この地域は典型的な黄土丘陵からなり、水度流失が深刻な地域で、浸食谷がいたるところにあります。

2022年はアブラマツ15ha 18,450本、アングズ15ha 9,900本を植樹しました。

昨年同様、地元の農村の人に加えて、蔚県志願者協会のメンバーが参加して植樹作業をおこなってくれました。

陽眷鎮の植樹には日中友好会館が実施する日中植林・植樹国際連帯事業の助成を受けています。



一年後にその結果をみました。活着率も育ちも大きな差があります。それぞれの平均的なものを掘って根を比較しました。意志をもつかのように太い根が一本、石炭かすに伸び、ほかの根も勢いがあります。それが地上部の違いを生み出しました。

自分の目で確かめた村の人たちは、砂利を用意して待っていました。しかし技術者は、石炭カスには肥料分があるのでは、と、いって、まだ納得しません。彼らが頑固なのは理由があります。「七文字の植林法」（選、細、深、緊、保、適、管）というマニュアルがあり、深（深植え）、緊（踏み固めて根と土を密着）、保（根を保護し水切れさせない）をみても、水不足への恐れがわかります。

それからも拠点の環境林センターの鉢植えなどで、実験を繰り返しました。大同事務所の技術顧問＝侯喜さんは大同市林業局で40年働いたベテラン技術者で、自分で納得したあとは「砂を加えて踏まない」という成句をつくり、古巣の大同市林業局に広めてくれました。時間をおかずに、以前のような植え方はなくなりました。



大同事務所 技術顧問の侯喜さん

大同緑化協力25年の軌跡

立花吉茂先生の貢献 = 植え方の技術改善

GENの山西省大同市での25年の緑化協力を振り返り、当時の写真も交えてシリーズでご紹介します。今回で31回目です。（高見邦雄）

大同の緑化協力について、動画も配信しています。高見副代表が語るGENチャンネル#14「農村で知った課題～どうしようもない貧困～前半」、#14「農村で知った課題～どうしようもない貧困～後半」、#15「小学校付属果樹園の着想」、#16「ついに小学校付属果樹園建設！」を新たにアップしていきますのでぜひご覧ください。右上のQRコードよりアクセスできます。



私たちが渾源県で最初に取り組んだプロジェクトはみごとに失敗しました。春に植えて夏に行ってみると、活着したものがほとんどありません。地元の技術者は、雨が降らなかったのだからと、いいます。

力になってもらえる専門家を日本でもさがし、立花吉茂先生にであいました。植えているところを私が撮影したビデオをみてもらうと、先生は「水不足で枯れるのではありません。こんな植え方だと根が窒息して枯れるのです。植物が水や肥料分を必要とすることを知らないので」と言われました。

大きめの穴を掘って、苗にあわせて少し埋戻し、苗をおいて土をかけ、水をやって足で踏み固め、さらにパラッと土をおきます。立花先生は、世界でも稀な粒子の小さな黄土に、水をかけ

たあと足で踏んだら酸素を追い出してしまふ、必要なのは通気性の改善だと言われるのです。

現地の技術者にそれを伝えても、彼らは反発するだけ。水不足の厳しさを知らないからそんなことを言うのだ、と、いって。

立花先生は何度も比較実験に取り組みました。渾源県照壁村では1994年春から小学校付属果樹園を建設しており、翌年夏のツアーが補植に取り組みました。2つの区画に分け、1つは地元の植え方で植えてもらいます。

もう一方では、畑の隅に捨ててあった石炭の燃えかすをスコップ一杯植え穴に加え、水をかけたあと絶対に踏まないようにします。私が「しっかり踏んでください。ただし苗から50cm以上離れたところを」と説明するとみな大笑い。立花先生から「高見さん、うまいな！」と、いってほめてもらいました。

GEN 総会記念講演 地域の多様性から考える SDGs・ポストSDGs時代の環境共生

講師：原裕太さん（東北大学災害科学国際研究所 助教）



気候変動、生態系の破壊、自然災害…、これらについて考える際、自然現象への理解が重要なことはいうまでもありません。しかしそれ以上に、市井の人々の知恵や営みといった人間圏の多様性の価値が、いま見直されています。なぜなら、住民生活への浅い理解に基づく不適切な開発政策、技術移転、環境保護が引き起こす諸課題に、世界は直面してきたからです。

21世紀に入り、文化の多様性や、生態系と文化の育み合いが注目されるようになりました。以上を踏まえた「地域多様性」の概念は、大地と生物の多様性に人間圏の多様性を組み合わせたもので、地球環境に関わる複雑な課題を総合的に捉えることに役立ちます。では、黄土高原とアジアの魅力、草の根活動の価値は、どう評価できるでしょうか？

加えて、地域多様性を活かした環境共生を実践するための、研究者と社会の連携を促す「超学際」の概念もキーワードです。これは昨今、巷にあふれる「SDGs」誕生とも深く繋がっており、世界と地域で活動する全ての人に向けた重要なメッセージです。一方で、SDGsは2030年までの優先目標であり、時代に合わせて改良が続けられると考えられます。その時、私たちは「ポストSDGs」の時代をどうリードできるのでしょうか？

緑の地球ネットワーク（GEN）が活動を始めた1992年生まれ若手地理学者が、地域多様性とSDGsの視点から、皆さまとGENのこれまでの30年を振り返りつつ、これからの環境共生とGENの次の30年を考えます。

○講師：原裕太さん（東北大学災害科学国際研究所助教・GEN世話人）

○会場：大阪産業創造館5階研修室A・

Bもしくはウェブ会議システムZoom

○参加費：無料（定員100名）

○お申込み：以下のいずれかの方法で

参加者募集 GEN なんでも勉強会オンライン

5月 和泉葛城山のブナ林を知っていますか？

—希少な太平洋型ブナ林の生態と保護増殖—

講師：前中久行さん（和泉葛城山ブナ林保護増殖検討委員会委員・GEN 代表）

ブナ林と聞くと白神山地などをイメージする方が多いかも知れません。太平洋側のブナ林はどんな特徴があるかご存知でしょうか。また、どう保護すればよいでしょう。

GEN 代表で GEN 自然と親しむ会の講師でお馴染みの前中久行先生は、国の天然記念物に指定されている和泉葛城山のブナ林の保護増殖に 30 年以上関

わっておられます。今回、希少な太平洋側のブナ林の歴史、生態、保護増殖と、さまざまな角度からお話いただきます。

○日時：2022 年 5 月 31 日（火）19 時～20 時 30 分ごろ

○手段：ウェブ会議システム Zoom

○講師：前中久行さん（和泉葛城山ブナ林保護増殖検討委員会委員・GEN

代表）
○参加費：無料（定員 100 名）
○申込み：以下のいずれかの方法でお申込みください。

① 5 月 29 日までに件名を「5 月オンライン勉強会参加希望」とし、本文にお名前を記入して GEN (gen@gen-tree.org) までメールを送る。

② 5 月 29 日までに GEN ホームページの「参加する」ページ (<https://gen-tree.org/participate/>) より申込み。

③ 5 月 30 日 14 時までにイベント管理サイト Peatix (<https://gennandemo11.peatix.com/>) より申込み。

申込みください。

① 7 月 4 日までに件名を「7 月オンライン勉強会参加希望」とし、本文にお名前を記入して GEN まで (gen@gen-tree.org) メールをお送りください。

② 7 月 4 日までに GEN ホームページの「参加する」ページ (<https://gen-tree.org/participate/>) より申込み。

③ 7 月 6 日 14 時までにイベント管理サイト Peatix (<https://gennandemo12.peatix.com/>) より申込み。

7月 GEN の活動と山の応答 - 中国 黄土高原を見て

講師：桜井尚武さん（元日本森林学会会長・GEN 顧問）

元日本森林学会会の桜井尚武さんは、長年にわたり GEN 顧問を務められ、大同にも何度も足をはこんでいただき GEN の活動を支えていただいています。

今回は桜井先生に、GEN のこれまでの黄土高原での取り組み、とりわけ生物多様性や、森林再生のための活動の意義など、これまでの活動を振り返り、

今後のありかたなどについてお話しいただきます。

○日時：2022 年 7 月 6 日（水）19 時～20 時 30 分ごろ

○手段：ウェブ会議システム Zoom

○講師：桜井尚武さん（GEN 顧問）

○参加費：無料（定員 100 名）

○申込み：以下のいずれかの方法でお

あの人この人

「あの人この人」では、個性豊かな GEN 会員をご紹介します。

中村 英さん（東京都）



某新聞社に 37 年勤務して定年退職。いまは中国に合唱の文化を定着させようという NPO の役員をしています。

私の GEN との関わりは、緑化への思いというよりは、高見さんとの個人的なご縁でした。私が大学に入ったとき高見さんは寮の 1 年先輩で、寮委員になった私は前期寮委員長だった高見さ

んにパシリのように使われていました。寮というのは旧日本軍のようなもので、1 日でも早く入寮の方がエライのです。これはかなわないと思い、なるべく距離をとるよう努めてきましたが、ウン十年後、寮の同窓会で再会してつかまってしまった、というところでした。

新聞社にいたものですから、東京で GEN の広報めいたことをやらしていた時期もあります。2005 年に日中緑化協力をネタに小論を書く機会があり、GEN も取り上げさせていただきました。そのころは日中緑化協力が国内で 100 近い団体が名乗りを上げていました。1999 年に日中緑化協力資金（別名小渕基金）が設立され、これは 100 億円規模で中国の緑化に協力するというものでした。それもあって、中国緑化は一大ブームでしたが、そのほとんどがいまは消滅していると思います。

取材も兼ねて GEN のツアーにも参加しましたが、そのとき教えられたのは、

植林はアフターケアが大切だということでした。植えるの 1 割、アフターケア 9 割だそうです。しかし多くの場合は、中国側の受け入れパートナーと盛大に式をやり、植樹してシャンシャン手打ち、ハイめでたし、というものでした。問題はそのあとのケアで、たいていは放りっぱなし。数年後に行けば跡形もない、というところが多かったのです。

その点、GEN は地元で強力なパートナーと協力関係を築き上げ、着々と成果をあげていました。ただ、よそ様の庭に木を植えさせていただくのですから、せっかく木を植えてもどういう幕切れになるのかと案じていましたが、大同では多少手荒くはありましたが、なんとか軟着陸したようにみえました。この 30 年で大同は大きく変化し、緑も大切にされるようになっており、これは GEN の影響も大きかったのだろうと思っています。

報告 八尾市・神立で春の花々を楽しむ

岡本 澄子（京都府）

3 月 27 日、GEN 自然と親しむ会前中代表と歩く野の道シリーズ⑦「八尾市・神立で花づくりの里を歩く」をおこない、11 名が参加しました。当日のようすを YouTube にアップしていますのでぜひご覧ください。GEN 公式 YouTube は 3 ページの QR コードよりアクセスいただけます。

「自然と親しむ会」は、たびたび参加させてもらっています。今回は八尾の東部、生駒山系のふもとと神立を案内していただきました。神立は古くからの園芸の産地で、特に切り枝の生産地が多いとの事。近鉄信貴線「服部川」駅からタクシーで水呑地藏尊まで登り、ハイキング道を歩いて下るといふコースでした。

麓からも山の斜面に白、黄、桃色の花の咲いているのが見え、後ほどハクモクレン、サンシュユ、カワズザクラであることがわかりました。これらの山の中の花木も、かつて切り花用に植えられたようです。地藏尊付近はアオキが多く、前中先生から説明がありました。真っ赤な実と緑の葉はヨーロッパ

でも大変人気があるそうです。たまに変形していたり、緑のままの実がアオキタマバエが寄生していて、鳥の被害を逃れるためと聞き、生存戦略に感心しました。その後、十三峠道を、石仏を眺めながら下り、のち車道にでました。標高 130m 程の位置の水平な道は、目の前がモモ花木畑、眼下に八尾の街、右手に大阪のビル群、遠くに大阪湾、かなたに明石大橋まで見える素晴らしい景色!! 景色に見とれながら歩き、玉祖神社に到着。こちらは、神の遣いといわれる黒い鶏の長鳴鶏が飼育されています。その荘厳な鳴き声を聞きながらの昼食でした。

後半は、モモ、サクラ、ミモザ、ユウカリ等の花木畑を観察しながら歩きま



した。商品として枝を切るため、幹は太いが背は低いずんぐりとした形の樹が多く見られました。切った枝は水に浸け、温度管理を行ない、花の時期（正月、桃の節句等）に促成出荷されると、先生から説明がありました。造園業の多い集落を通り服部川駅に無事到着。今回の行先は要望した場所でした。期待通り、美しく、癒されて、それに歩きやすいコースでした。実施して下さり感謝いたします。



報告 自然災害からの復興とは

稲垣 文拓（GEN 会員）

4 月 6 日、GEN なんでも勉強会オンライン「復興の眺めと痛み～東日本大震災から 11 年」をおこない、16 名が参加しました。講演部分は YouTube で公開しているほか、GEN 会員のかたはホームページの「会員さま限定ページ」で質疑応答部分までご覧いただけますので、当日ご参加いただけなかった方もぜひご覧ください。GEN 公式 YouTube は 3 ページの QR コードよりアクセスいただけます。

11 年前の東北地方太平洋沖地震は関西でも大きく揺れました。地震発生時は、関東のお客さんと打ち合わせ中で、その日の帰宅は、電車もなく、3 時間かけて歩いて自宅まで帰った記憶があります。関東へ帰るお客さんも、途中新幹線内で一泊するという不自由となりました。その日から、ニュースで次々入ってくる現地の惨状に驚き、暮らしの根底を揺さぶる焦燥感を強く感じました。関西では、その前に阪神淡路大震災があり、当時十三に住んでおりライフラインの復旧は早かったので、続々とボランティアが神戸入り、阪急電鉄の乗換である十三駅で降りて、ついでに物資を買い出しされるんですね。それが住んでいる者には回ってこない、

そんな不自由を体験しました。なので、東日本大震災の時も逆に現地への迷惑をかけてはいけないと思い、行きませんでした。

今回のなんでも勉強会では、工藤さんから、東北の大震災のあと、従来あった風景が自然災害でどのように変わって、そしてどのように復旧されてきたかを写真を通して説明いただいたので、とても分かりやすく、理解することができました。そして、11 年たった今でも復興はままならないことを知り、その難しさを感じました。復興とはなんぞや～という悩みもよくわかります。単に津波を防ぐ防波堤を高くすることでより安全にする。それが復興ではないことは確かで、震災前と同じ生活を

することはかなわない、では、望む新しい暮らしに満足することができるかという自問自答の統計が物語っているという現状。

今、私は京都の田舎に居を移して 5 年になります。自分の暮らしを自分の手で作りたくて。畑を耕し、猟で肉をとり、交換して飯を食い、薪を燃やし暖をとり、山の茅場で刈り取ったカヤで屋根をふき、なんて理想ですけれど。人が自然から離れてしまうと、災害の危険性に気づかないことが多々あります。便利な暮らし、エネルギーをたくさん使って便利になればなるほど、その裏で知らない人達が苦しんでいることは確かなことですね。阪神淡路大震災と東日本大震災は、そんな考えを確かにしてくれました。

津波を防ぐ新しい堤が景観を失ったとしても、その安全性を担保しながら、なおかつ東北の自然と向き合い、つつしまやかな暮らしを楽しむことはできるのではないのでしょうか。お互いが笑顔になればそれが震災からの復興だと思います。



人たちが土器洗いや破片の接合をしている。埋蔵文化財の調査員なのだろう。私も40過ぎまで滋賀県で同じような仕事をしていたので、親しみを感じ、話しかけてみた。聞けば、大同周辺の北魏遺跡から出土したものだという。

華厳寺のあととは、すぐ近くにある九龍壁を見学。大同市内で指折りの観光スポットだ。人が多くて、良い写真がとれない。全長45メートル、総高8メートル。9匹の龍が5色のレンガを積み重ねることにより描かれているので、この名がある。明の太祖洪武帝（1368～98在位）の第13子・朱桂が大同府に封じられたとき、その邸宅用の装飾壁として造られた。邸宅の方は明末の兵火で焼亡、装飾壁だけが残ったが、区画整理のため元の位置から南へ30メートルほど移されたという。

夜は、早朝荷をほどいた雲岡賓館に一泊。

谷口 義介 (GEN 会員)

まず、「大同歴史文物陳列」には、中期旧石器時代の許家窯遺跡から出土した人骨と、石器・骨器および動物化石の一部が展示。人骨は10体あまりの老若男女。説明板に、動物化石では野生ウマ・毛サイ・カモシカが多いとあるので、同行の人たちに補足して、「ウマの歯だけの集計からみると、約360頭分になるそうですから、ウマはやはりうまかったんでしょう。」と、お寒い親父ギャグを言ってしまふ。

それはさておき、10万年まえ、大同盆地の大部分はじつは湖水が占めていて、「許家窯人」はその湖畔で狩猟・採集の生活を送っていたらしい。そして旧石器時代の後期になると、各遺跡は盆地の中心方向に集まり、新石器時代に入って5000年まえには、少なくとも二つの遺蹟が桑乾河の近くに成立している。おそらく、このころまでに「大同湖」は、北東を向いて流れる桑乾河により流出し、干上がってしまったのだろう。

「北魏出土文物陳列」には、太和八年(484)銘をもつ司馬金龍墓から発見された鉛釉陶俑がいくつか展示。儀仗兵・騎馬武者・文官・樂女など20～30センチの大きさで、くすんだ彩色。戦士がフード付きコートを着ているのは、ここが極寒の地だったことをあらためて認識させる。

他に「石刻芸術陳列」あり。展示館を出て山門の方に歩きかけると、収蔵庫のような一室で数名の若い

黄土高原紀行 <9>
二、上・下華厳寺 (2)

このあと、東南に隣接する下華厳寺をのぞいてみる。

前・後の両院からなるうち、メインの簿伽教蔵殿は、もと経典を収蔵するための建物。簿伽は簿伽梵の略で、ヴァガバットつまり世尊(仏陀)のこと。したがって、簿伽教蔵とは、「世尊の教えの蔵」という意味になる。遼代の1038年の創建というから、上華厳寺より少し古い。

じつは上・下華厳寺は、文化大革命のとき、合併して大同市博物館になったので、破壊をまぬかれた、といういわれがある。じゅうらいどおり寺院のままだったら、「旧四悪」(古い思想・文化・風俗・習慣)の一つとして、とうぜん紅衛兵の攻撃的になったはずだ。博物館に衣替えしておけばなんとかなる、とお寺だけに文殊の智慧をしぼったのだろう。1977年に文革が終息したあとの89年、上華厳寺は宗教活動の場にかえて現在にいたり、いっぽう下華厳寺は私たちがたずねたとき、そのまま博物館として利用されていた。(のち、大同市博物館は別の場所に新築)。

主殿の簿伽教蔵殿はいま「遼代芸術館」になっているが、残念ながら閉館中。ここには遼代のみならず中国仏教美術の極致とされる脇侍菩薩があるはずだ。現在どこかに貸し出されているらしい。

ところが、今回の旅行の終り近く、8月23日(金)のこと。北京にもどって、中国歴史博物館を見学したとき、たまたま遼代文化特別展というのをやっていた、大同の下華厳寺で見ることができなかった美しい脇侍菩薩と遭遇した。合掌して、少し腰をひねり、わずかに首を右側にかたむけている。切れ長の眸、細くおった鼻筋、丹花のごとき唇。仏師はおそらく遼の宮中の美女をモデルにしたのだろう。絶世の美女など無縁のわが人生ながら、北京で大いに眼福を肥やした次第。

さて、境内にはもう一つの建物があって、屋内に三系統の陳列ケースと説明板があった。



地元のこどもたちとアンズ苗を植える

くそう、15陸の豊かさも守ろう)、剪定した枝を燃料にすることで化石燃料の使用量を減らす(目標13気候変動に具体的な対策を)などの効果も見込めます。もちろん新しくなった学校で、毎年きちんと小学校を回していく経費がまかなえるわけですから、人材育成にもつながります(目標4質の高い教育をみんなに)。小学校付属果樹園を寄付した小学校の卒業生が、より上位の学校に通う事例も増えたということも聞きました。動画で高見さんがコメントしているように、小学校付属果樹園は「環境破壊と貧困の悪循環」を解決するための良いきっかけとなったと言えるでしょう。

また重要なのは、小学校付属果樹園のプロジェクトを実施する上で、資金調達、現地での協力の取り付け、建物の建設と維持管理、果樹園の整備などに、多くの関係者がさまざまな困難を解決するため主体的に関わる経験をしたことです。これはまさに「パートナーシップ」の成功例であると思えます(目標17パートナーシップで目標を達成しよう)。

GEN チャンネル #15 は、3 ページにある QR コードからご覧いただけます。(長坂)



森林についてともに学ぶ

- GEN チャンネル #15 「小学校付属果樹園の着想」と SDGs -

GEN チャンネルは、新型コロナウイルス感染症の感染拡大を受けた新たな GEN の活動です。#1「小老樹」は、2021年7月31日に公開されました。2022年5月2日時点で、#16「ついに小学校付属果樹園！」までがアップロードされています。今回は、その#15の動画の内容について、SDGsの観点から解説してみたいと思います。

■「共通言語」としての SDGs

SDGs は持続可能な開発目標の略称で、2015年9月25日の国連総会で採択された『持続可能な開発のための2030アジェンダ』に記載された、2030年までの具体的な指針を意味します。SDGsの特徴は、貧困問題、気候変動問題、生物多様性の保全など、現在、私たちが直面している様々な課題を包括している点です。

SDGsの達成のためのキーワードは「Leave No One Behind (誰一人取り残さない)」です。SDGsとして掲げられた課題を解決するためには、政府、企業、NGO、市民がともに力を合わせる「パートナーシップ」が重要ですが、ここで、多くの異なるプレイヤーの間での意思疎通をどのように図るかが成功に向けた鍵となります。それぞれが同じ方向を向いてこそ、パートナーシップによる協業は可能です。そのための共通言語として SDGs が大いに役に立っている



図：ウェディングケーキモデル

出典：Stockholm Resilience Centre: The SDGs wedding cake
https://www.stockholmresilience.org/research/research-news/2016-06-14-the-sdgs-wedding-cake.html

ます。

■ウェディングケーキモデル

SDGsの全体像を理解するための枠組みはいくつかありますが、その中で有名なものに図に示したウェディングケーキモデルがあります。

ウェディングケーキモデルでは、SDGsの1から16までの各ゴールをBiosphere(生態系または環境)、Society(社会)、Economy(経済)の3つのカテゴリーに分類します。これは、生態系が社会を支え、社会が経済を支えるというSDGsのそれぞれの目標の関係性を示したものです。一番上が目標17のパートナーシップ。これは、他の目標とは少し違い、それぞれの目標を達成する手法としての意味合いもあります。

■SDGsの観点からみた小学校付属果樹園

GEN チャンネル #15 では、小学校付属果樹園のコンセプトを語っています。GENの黄土高原での活動は、植林した面積や本数で語られがちですが、SDGsへの貢献の観点からみると小学校付属果樹園も大いに注目すべき事例です。

GENが大同市で活動をはじめた1992年当時、大同市の農村地帯ではポロポロの小学校が多く残っていました。現地でも、その建替えの必要性は課題として認識されていたのですが、単に寄付を募って校舎を建て替えるだけでは、その後の維持管理の費用を賄うことができません。

それに対する有効な解決策が、小学校にアンズなどの果樹園を寄付する取り組み「小学校付属果樹園」でした。アンズの実実は毎年収穫でき、それを村外へ販売することができます。果樹は一般的に面積当たりの販売単価が雑穀などよりも高いので、これによって、毎年必要になる維持管理の費用をまかなうことができるようになりました(目標11住み続けられるまちづくりを)。それだけでなく、土壌の侵食の防止(目標1貧困をな

中国語学習者のつぶやき

万年中国語学習者が日々中国語を学びながら感じたあれこれを綴ります。ちょっと前にBlack Lives Matter(人種差別抗議運動)の報道を見ていましたが、Black Lives Matterの日本語訳が各報道機関でかなり異なっており、日本語で端的に伝える難しさを感じるとともに、中国語ではどう訳されているのか気になって調べてみました。やはり複数の訳があり、よく目に

付いたのは「黒人的命很重要(黒人の命は重要だ)」、「黒人的命是命(黒人の命も命である)」、「黒人生命同样重要(黒人の命も同様に重要だ)」でした。個人的には一番最後のものが少ない文字数で端的に伝えているように感じましたが、みなさんはいかがでしょう。自分でも考えようと思いましたがいいものが浮かびませんでした。

名訳が思い浮かんだ方はぜひご一報を。(河本)

情報ひろば
いっしょなかたち

*今号ではお知らせできるイベント案内はありません。
*当欄に情報をお寄せください。本紙は奇数月15日ごろの発行で、締切は前月の末です。
なお、紙面の都合により掲載できない場合があります。ご了承ください。

小夏とたまねぎ
いかがですか

今年もおいしい小夏はいかがですか。低農薬の玉葱と蜂蜜もおすすめてです。

◎土佐小夏

A	5kg	4,800円
B	3kg	3,000円
C	家庭用5kg	3,800円

◎おいしい玉葱(低農薬、有機肥料)

A	5kg	2,500円
B	3kg	1,600円

◎土佐のみかん山の蜂蜜

1kg	4,800円
-----	--------

(出荷は5月末より)

※送料別途。関東1,100円 関西1,000円(20kgまで)

※売上げの一部をGENに寄付していただいています。ご注文の際は『GENの紹介』とひとことそえてください。

【注文先】田中農園 田中隆一さん

(〒781-7412 高知県安芸郡東洋町河内203 tel./fax.0887-29-2500 e-mail tanakan3@cronos.ocn.ne.jp URL http://tanakanouen.com/)

いままぐできる
GENへの協力

■会員の輪をひろげよう!

緑の地球ネットワーク会費(年額)

一般会費	12,000円
家族会費(同居の家族2人目から)	6,000円
学生会員	3,000円
ジュニア会員(中学生以下)	1,000円
団体会員	12,000円
賛助会員	100,000円

※会費は会報購読料を含んでいます。

■会報を購読してください!

GENの活動に関心はあるけれど会員になるのはちょっと、という方は、会報『緑の地球』を購読していただませんか。年間購読料2,000円。

■緑化資金、運営寄付もとむ

金額は自由です。また、緑化資金、運営寄付の別を問わない用途自由のご寄付も受け付けます。その場合、必要に応じて使わせていただきます。

*緑化基金の20%は事務管理費になります。

■書き損じはがきを集めています

書き損じはがき、古い未使用のはがきを集めています。通信費にあてます。

■未使用切手・古切手を集めています

普通切手、記念切手、外国切手なんでもOK。古切手は周囲を1cmほど残して切り取ってお送りください。

■ボランティア募集

会報発送や事務所の手伝いなどのボランティアを随時募集しています。参加可能な曜日、時間帯をご連絡ください。来ていただきたいときにGENから連絡します。

* * * * *

【GENへの寄付は税制上の

優遇措置を受けられます】

緑の地球ネットワークは大阪市に認定された認定NPO法人です(期限は2024年4月8日まで)。

個人によるGENへの寄付は、税額控除あるいは所得控除を受けられます。対象となるのは2,000円を超える寄付金で、確定申告が必要です。

企業からの寄付金は一般寄付金の損金算入限度額とは別枠の損金算入限度額が認められています。

また、個人が相続または遺贈により取得した財産を、相続税の申告期限以前に認定NPOに寄付すると、相続税の課税対象から除外されます。

GENの場合、寄付金となるのは緑化基金、運営カンパ、おまかせカンパと会費のうち1口を超える部分、賛助会費から12,000円を引いた金額です。

また、大阪府民、大阪市民のかたには個人住民税の控除もあります。

くわしくはGENまでご連絡ください。